（昭和三年十二月二十五日第三種郵便物認可）　昭和十一年九月十三日　磐城新聞　〔日曜日〕　第四千七百二十七號　【一】

夕刊
磐城新聞
九月十二日發行
發行所 磐城新聞
（日曜祭日翌日休刊）

博多から
佐々木生

下

公園は博多に東公園があり、福岡には西公園がある。西公園は博多灣一帶から多々良濱及び立花山などを眺むる景觀は實に風光明媚である。園内には櫻が多い、藩祖を祀つた光雲神社があり、亦た勤王の志士平野國臣の銅像も建つてゐる

東公園は彼の有名なる千代の松原にあつて、元寇の役に身を以て國難に代らんと祀られし　龜山上皇の御像が建てられてある。其の北には蒙古襲來の予言者であつた日蓮上人の巨像が立つてゐると共に元寇の記念である日蓮上人の銅像の前に賽錢箱が置いてある。一ケ年に三萬圓も上るとは驚いた、其の大きさは長さ二尺五寸位横一尺五寸許りの黄銅製である、試みに兩手を掛けて動かして見ようとしたが到底一人や二人では地離れもしない程重いものである。其の近くに元寇記念館があつて當時の勇將の遺物や敵の鹵獲品等が多數陳列されてある

官幣大社筥崎八幡宮は市の東端箱崎町にあつて應神天皇、神功皇后、玉依姫命を合祀し、廟前の箱松は應神天皇の胎衣を埋められた靈蹟である。廟の四邊は大樹古木が森然として昔滑かに塵飛ばず、社殿は特別保護建造物で海濱に向へる樓門には例の敵國降伏の扁額が掲げられてある。其の前方は博多灣にして神功皇后征韓の御船出の地であるといふ

箱崎町の東方多々良川の流域から千代の松原までの間を多々良濱といふ元寇の役十萬の兵が舷を連ねて押し寄せたのも此濱邊であり其の他元弘の亂には肥後の菊地が少で大友等と戰ひ足利尊氏西走の時には菊池武敏が邀擊して遂に敗れたる等、此邊りは歷史的回顧の跡が多く、實に風光歷史を得て景情兼ね備はるとても言ふべきか

西公園に近い金龍寺内に篤學の士貝原益軒先生の墓があり、亦た其の近くに平野國臣の出生地がある

七月題詠（三）
新妻久滿男選

『青』　岡田友之

○青蚊帳の麻の香りをしたしみて起きめぐみ居りラヂオ体操

第五句は突然過ぎる。情景はうなづける。

○庭隅の青葉ごもりに咲き盛れる暗さもうれしあぢさゐの花

○はらはらと雫こぼして青蛙ぶだう蔓葉をとび移りたり

○ゆたかなる青田の水の白雲の動くともなく光りうつろふ

二句、三句の『の』の連續は煩々しい。内容をこわしてゐる。一考を要す。

○梅雨明けの紫青の空にまぎれなくあんずは熟れし實をつけて居り

紫青の空にの『空』は大ゲサである。巧な表現の歌である。

○銀バスの窓に明るき燈台の白亜の上の青き夏空

『銀バスの窓ゆ仰げる燈台の』少し前よりも高くなつてゐるでせう。

原町途上
珠雲　小野務平

雙相之間邱嶽連
南來北往客千千
人言賓道心陰結
穩坐車窗我熟眠

京人形
堀江政子

では！さようなら
愛らないで
何時までも
別れた乙女にしつかりと
抱く京人形の愛らしく
今は三ト年の思ひ出に
嫁ぎし部屋に飾られた
昔思はす懐かしさ
別れた人の
戀しさに

9月13日　△上杉謙信陣中の作吟（天正五）△岩倉具視一行歸朝（明治六）△九代目團十郎歿す（同三六）△乃木夫妻の殉死（大正元）△警視廳左翼辯護士十七名檢擧（昭和八）

9月14日　△熊谷直實歿す（承元二）△關ケ原の合戰（慶長五）△廣田弘毅外相となる（昭和八）△米アリゾナ州排日運動再び惡化（同九）

小說　高橋是清
（117）　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

あんです嵐（二）

ヘーレンの仲裁で事なきを得たものゝ、是清の心には暗い影が殘されてゐた。

田島技師に對する憤りのみでなかつた。それは、何か事業の前途を暗示するかのやうな、一抹の不安に似た影だつた

（曾ての海上の荒と言ひ、今又一些事の爲に動搖する心と言ひ）

考へずにはゐられなかつた

さうして登山の日は迫つた

出發を明日に、一夜是清は人夫達に酒肴を與へしめた二月廿日の夕刻である。長屋からは人夫等のざわめきが聞えてゐた。唄ふ聲が。そして笑ひはやす聲が然し是清は愁まなかつた。獨り室内に酒盃を傾けながら默然と考へこんでゐた

人夫等のざわめきが、ふと、唯ならぬ怒號に變つてゐた。床を踏み鳴す足音が亂れた。器物の毀れる音がした

是清は酒盃を捨てゝ走り出た。

『何事だ！』

覺えず叫んで了つた

田島技師が泥醉した坑夫を追つて、背後から突き倒すと、組み敷いて荒縄を手首に卷き付けた。皮が破れて血が走つた

『莫迦野郎！』

と、突然背後から、喚きざま跳びかゝつた二人の坑夫が、立上らうとした田島技師を倒して、足下に踏み躙つた。間髪を容れず。小池技手と屋須通譯が、左右から走り出て、仲に分つて入つた。途端に、わつと喚聲が湧いて、二人は數名の坑夫等の中に、拳の雨を受けた

瞬間、脫兎と躍り出た一人

『亂暴すると容赦せんぞ』

叫びざま跳入むと、二人を毆つた坑夫の體が、二人三人、輕々と宙に躍つた

『やるなら俺が對手だ。來い！』

大手を擴げた男――山口愼だつた。坑夫等は脅れて逃げた

『やめんか！』

二度目の是清の絶叫に、一同は聲をひそめて蹲つて了つた

山口が田島技師を抱き起した

田島技師は片足を挫折したらしく、蒼白な顔を歪めて、唇を食ひしばつてゐた

山口は是清の顔を見上げて

『喧嘩です、たいした事ではありません。が、田島さんは足を挫いて居られるやうです』

と、靜かに言つた

『申譯ございません』

小池技師が、昂奮した聲で坑夫の一人を叱ると、進み出て

『田島さんも少々お考へがなさ過ぎたと思ひます』

と、白眼を注ぐ田島技師を見返して言つた

『元來が坑夫達の喧嘩です坑夫間の喧嘩は坑夫間で始末を付けるのが彼等の常識です。他人の容喙は却て惡結果を招致する事は判り切つた事です。又醉漢を縛るに際して手首を縛る事は、彼等の商賣道具を損する事になり、最も嫌ふべき事で礦山技師として、是等の事は御熟知の筈と思ひますが！』

田島技師は默つてゐた

『さうだ、ちげわねえ』

『技手さんの言ふ通りだ』

『來たのが惡いんだ』

坑夫等が又ざわめいた

『默れ！』

是清が三度叫んだ

『贅言を控えろ！喧嘩その事が既に惡いと知らんか。話す事がある。ズット前へ出ろ』

『何卒御猶見なすつて』

口々に言つて、是清の前に踊る坑夫等に、突然顔を向けた田島技師が、憎惡をこめた大聲で

『獸物奴！』

と、怒鳴つた

『何だと！』

『蒼蠅い！』

雛
生方たつゑ

四

乘り潮に野菜の切つ端や塵を投げ込むのがザブンザブンーと私の歸る後の方た音がしてゐました。懐には入り切らぬ雛をわざわざ造作につかんで歸る途中荷車を押してゆく見知りのおばさんが、不思議さうに、今頃どうしたのだと言ふ樣な顔付で言葉をかけられたには、どきつとして、何だかすつかりこのおばさんに雛の事の顚末を見透された樣な氣がしてなりませんでした。勿論狠蒸汽船などに乘せられる事もなく、慘な雛はその後物議を醸す事もなく保存されてゐたのでしたが、學業の爲に早くから兩親の傍を離れてゐた私はこの雛が其後どうなつてしまつたのか、住居を轉々したせいもあつて今まで遂にわからずに終つてゐます。幼い頃の雛に就てはもつと明るい美はしい思ひ出もあつていゝ筈です。追想すればいろいろに淡い聯想も引出されぬことはないのですが、自分としてはそれ程の心を惹かれる事は無いやうです。不思議にこの物々し〝換失策〟の御所雛だけは、びつしりと心に嵌められてゐる事を思へば、確かに童心を搖がして案じ盡したものと見えます

四五年前、十幾年ぶりでこの紀伊に夜の漁師町を訪ね、河口にあつた家のあたりを歩いたのでした。州の並んだ砂間から、しめつた夜潮の風が吹き拔けて、落は昔のまゝの面影を留めてゐましたが、雛の問題の友の家は跡かたもなく、ペンキ塗りの四角い工場の建物に變つて、騷々しい夜業のモーターの響につれる排水の音が、川の闇を破るのをきいた事でした

（完）

夜間診療
胃腸性病
内科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

御贈答に
商品券を
御利用下さいませ
ふかや洋服店　平三 電203

廣告

男、女學生夏服
其他流行及一般の服特賣
洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目　電話三八六番

八幡神社祭禮
特賣十四、十五日兩日
帝都大流行ノ日本一神田琴
日本刀、陣刀、太鼓
女ノ御子樣ニハ手箱代用トシテ是非日本一神田琴ヲ御勸メ致シマス。
尙兩日右品御買上ゲノ御客樣ヘ御祝トシテ生姜ヲ添ヘ申上ゲマス。
磐城平町一丁目
教育玩具雜貨
森下商店
商號豆屋　電略（モリ）又ハ（モ）
其他玩具一般豐富取揃

高久病院
内科　外科　小兒科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
平町田町（電話五三二番）

旅舍
大幸舘
電話下谷（83）六七七番
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
私は平町出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

日滿交驩
大野球戰
奉天實業對日立鑛山軍
期日　九月十八日午後二時
場所　磐城中學校球場
主催　福島民報平支局
後援　平町役場　磐陽野球審判協會
◇會員券　内野五十錢　外野二十錢
取扱所
△三丁目玉すし　△四丁目マルトモ運動具店　△田町野崎自動車店　△同大床理髪店　△同福島民報支局　△同大塚運動具店　△南町佐藤自動車工場　△才槌小路魁文堂　△中町二葉活版所　△紺屋町扇屋酒店
（會場で入場券賣りません。會員券御利用下さい）

磐城の御みやげ品
名物
靈峰（みやま）羊羹　金十錢
姉妹品
柿羊羹　のり羊羹　沼ノ内辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。
小賣御希望の方はお申越下さい。
製造發賣元
平屋賣店
小川郷驛前

急告
豆タク！の出現
豆タク！
豆タク！
春のドライヴに、商用に
迅速　低廉
市内 三〇錢
市外地 普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部
四丁目　電話二一七

食事、喫茶、酒場を兼ねた
秋のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

諸機械製作販賣
機械切各種齒車製作
合名會社
田邊製作所
平白銀町（驛前通）
電話二九四番

建築請負
同用材
製材
各國銘木
秋山材木店
店主 秋山市造
植田町　電話六二番

X光線科
整形外科
大河内整形外科醫院
醫學士 大河内一郎
平町才槌小路四
電話五八八

完全に大試練を突破した 男女防護團員の感激的奮闘
空襲撃破に自信を得た 平全町民の非常時意識

演習終る

百六十萬縣民總動員の下に行はれた防空演習は終つた。顧るに青年團、火防組員、國防、愛國兩婦人會、女子青年團、其に指導役の在郷軍人等を一丸とした千百五十名の防護團の活動こそは、今次平町の防空演習を通じて蓋し最も感激的の存在であつた。初日以來息詰まる緊張裡に續けられた團員の監視警戒と之に口糧を供給して活動の源泉を絶たなかつた女性軍の炊爨勞役と、その一糸亂れぬ統制下にピタリ呼吸を合せての健闘振りは漫ろに空襲何ものぞの槪を見せて餘す處が無かつた。殊に昨十一日の如き夜もすがら沛然たる豪雨の中を馳驅奔を厭らして全町民に空襲來を呼びかけ、文字通りの濡れ鼠となつて敢て厭ふ處無かつたその雄々しい姿こそ、斷じて我が國民のみの誇るべき祖國愛の現れとしてその敬虔さに思はず合掌せしめらるるものがあつた。今や既往兩三日に亘つて展開された非常時繪卷を憶ふてその間油然として起る一種の心強さに誰れか若鮎の如き清新の武者振ひを感ぜざるものぞ。けふ午前十時、さしも大掛りであつた防空演習の停戰喇叭は一碧の秋空に瀏喨として鳴つた。吾人の胸裡に永く烙印されて消ゆること無い追憶となる事であらうけふではある

雷雨電閃物凄い中に 鳴り響く休戰ラッパ
豪雨を衝いて 昨夜防護團の活躍

昨十一日の演習第一日は待望の飛行機も遂に姿を見せなかつた、午前十一時福島地區防衛司令部から發表された狀況第一は

『第八師團(弘前)よりの通報によれば本日午前十時三十分頃國籍不明の飛行機約二十機の編隊は高度三千米を以て青森上空を東南航せり』

更に戰機愈よ熟した午後二時半の狀況第二は

(福島地區防衛司令部發表)第九師團(金澤)の通報によれば二十機を下らざる某國爆擊機は午後零時三十分鳥取上空に現出高度三千米で東航せしも忽ち斷雲中に姿を沒せり

空襲、警戒の數度に亘る警報に接して午後四時半更に統監部から

情況第三＝午後四時三十分二十機の某國爆擊機編隊が能代(秋田縣西海岸)に現出、海岸に浴ひ南航せり高度三千、又同時頃約十機の所屬不明の編隊は宮古(岩手縣東海岸)上空に現出二千の高度を以て南航

との情報が入り、折からの雷雨も物かは、各防護團愈よ緊張のうちに夜に入る、七時三十五分!夜間第一回の警戒警報は來た、續いて接した同四十分また〳〵縣統監部から

上鳩監視隊の通報によれば午後報告の爆擊機らしきもの(數不明)は新潟縣方面に迂回東南進せり

の情報が入つて待つ間もあらず四十四分には愈よ空襲!全町眞つ暗闇の中で各防護團夫々に爆彈投下の演習が展開され、八時十分空襲同十九分警戒の警報解除に接した、雨は依然として暗黑の街に降りしきり八時五十九分再び空襲の警報が出て北部防護團が高麗橋で爆彈投下による活躍の勇ましい處を見せ九時四十二分相前後して空襲並に警戒警報解除の通報が入つて休戰ラッパは高らかに鳴つた

サア來た敵機!
防護團員の神經尖る
演習第二日

雨はあがつた、星が瞬いてゐる、午前四時!演習續行と共に各防護團の配備は早くも完了、直に警戒管制に入る、續いて四時八分空襲だ、曉を破つて警報班の發令が巷に破裂する

狀況第四(四時十分)仙台防空監視隊の通報によれば目下仙台上空に飛行機の爆音聞く、南航するもの丶如し

情報(四時十七分)梁川上空に敵機現る丶

狀況第五(四時三十分福島地區防衛司令部發表)第八師團(弘前)の通報によれば本朝四時頃機數不明の爆音野邊地上空を南航するもの丶如し

緩々警報が入つて昨日來の本舞台は愈よ緊張して行くやがて五時三十四分管制が解除されてにぎりめしの朝餉を濟まし、ホッ!と一と息入れてゐた七時三十五分飛行機が來たとの叫びに見れば——オウ來た、[illegible]に本ものだ、銀翼を朝の陽に輝して二機並んで來たではないか、防護團員の神經は瞬間ピーンと張りきつて目前に迫つた空襲を迎へた上空を大きく旋回する際、サッ!と白粉が流れ、大井川指導官の合圖で役場構内に爆彈が落ち、續いて催涙彈が落ちた、救護班の後を承けて防毒班が驅けつけて盛んに石灰を撒く騷ぎだ更に正八時に至つて今度は三機現れた、愈よ待ちに待つた『敵機の襲來』だ、平局樓上の高射機關銃隊から盛んにうつてゐる音が快く響いて來る

爆彈投下 實況
黑石中佐を迎へ きのふ役場構内で

縣統監部から黑石中佐を迎へた平町聯合防護團では昨十一日午後三時から役場構内で防毒、防火班活躍の勇ましい處を見せた

合圖と同時に据わつけた燒夷彈に點火されるや火は忽ち燃え擴つて白煙濛々、直に傍から消防隊が驅けつけてポンプを向ける、ガス彈が投下(假定)されて三名の中毒患者が出れば早速救護班が出てタンカで運ぶ、その後からはマスクがけの防毒班!、サラシコ代用の石灰を一帶に撒き散らす等目にもとまらぬ敏活な行動に終始し成績上乘であつた

ヤレ演習は濟んだ
萬歲の聲、拍手の嵐
役場廣場で終了式

二日間に亘つた未曾有の演習は午前十時全くその幕を閉ぢた、直に閲兵式に移つて十一時から役場廣場で大井川指導官の訓項講評あり次いで青沼聯合防護團長挨拶、柴田中署長、井上消防組頭の祝辭で式は終り、團員千餘名から、ドッ!と叫ばれた萬歲の聲、拍手の嵐は颱風一過の碧空にいとも力強くこだまして行つた

〔青沼團長挨拶要旨〕今回の演習は本縣最初の試みであり、平地區として國家の重きをなしてゐた、團の結成を見てから町民一致、團員統制のうちに終了を見たは團長として誠に感謝に堪へない今後は一層研究を積み今後の演習に備へて欲しい最後に各位の健康を祈る

暗の街を行く
KS記

◇

空襲!の警報と共に街は眞つ暗闇だ——聯合防護團の本部前を走り出した自動車の前で突如轟然たる爆音!、西部防護團が爆彈投下の實演だ、死傷三名を出して直に馳せつける救護班、タンカの傍で活躍する看護婦連の白衣だけがパタ〳〵闇の中を走つて行く

◇

才槌小路から紺屋町へ、街角に佇む警備班の目が神經質に輝いて——車は程なく尼子橋に出た、時折閃く稻妻に新川筋がうす氣味惡く闇の中に描き出される

◇

地上の一切の光は奪はれてたゞメガホンに强化された交通整理班の太い聲があるだけだ、鎌田橋で折返して本通りをまつすぐ一丁目へ——ガランとした鋪道筋には犬つ子一匹歩かず、この『沈默の街』には何となく鬼氣が迫つてゐる、立往生したバスは大きなづう體で道の片隅みにかしこまつてゐる

◇

八時十分!空襲解除だ、傳令自轉車のけたゝましいベルがあちら、こちらの鋪道へ轉がつて行く、警報班のメガホンからまた線の太い聲が飛び出してちらり、ほらり電燈の光がぼやついて行く

◇

八時十九分、サア!警戒警報も解除された、電燈がパッ!とついた、『沈默の街』は一變してざわめき出した頃自動車は再び本部前に辷り込んだ

奉仕に年齡は無い
─七十翁の防護團員 一同を感激せしむ─

平町八幡小路植木商根本金二郎(七〇)翁は古稀の頽齡に似合はぬ元氣な爺さん!、同地北部防護團員が手不足でどうしても完全な空の護りが出來ぬと聞いて敢然これに參加 ナッパ服にカン〳〵帽と云ふいでたちで警報班に入り、自轉車をとばして『空襲〳〵』との活動振りは若いもの顏負けの態。之を耳にした青沼町長は今十二日早朝同人を本部に呼んで激勵、大井川指導官からも講評の際大いにこの健闘振りを賞揚された

參加團体と町民の融合に敬意を表す
大井川指導官所見

——豫期以上の成果を收め本演習を終了し得たるは誠に皇國の爲欣快に堪えざる所なり、然りと雖本演習の實績に鑑みれば猶將來の改善訓練を要する點無しとせず以下重要なる實項に就き所見を述ぶれば

一、各種團体の活動

青年團は常に旺盛なる意氣を以て克く防護團の骨幹となり、終始敏活にして團結鞏固平素訓練の實を擧げたるは可なり青年學校生徒、少年團、各種婦人團体亦克く各々平素の訓練に基き其特性を發揮し各種團体互に融和し防護團の運用を圓滑ならしめたるは其成績顯著なりと認む

二、防護團の活動に就て

燈火管制、警報傳達共に正確にして機敏、關係各班の努力を認む、然れども警戒管制の要領を全市民に徹底せしむるには將來一段の配慮を望む、防護に關する施設訓練亦概ね良好なるも防毒救護に就いては研究を要するものあり、對立監視、防空通信に關しては後日上司より指示せらるる所あるべきを以て玆に所見を省略す

猶防護團細部の所見に關しては後日機を得て發表以て[illegible]に資せんとす、それは要するに本演習に於て參加各團体と三萬町民との融合一致の實を遺憾無く發揮せられ、玆に優秀なる成果を收め得たるに對し深厚なる敬意と感謝の意を表するものなり、各位は今回得たる體驗に基き更に研究を進め防空組織並に訓練の完璧に努むると同時に軍民一致の實を擴充し帝國四圍の情勢に對し明日の準備に遺憾なきを期せられんことを[illegible]

簡保と年金記念 宣傳機平上空へ
來月二日飛來の豫定

仙臺遞信局では簡易保險二十周年並びに郵便年金十周年の記念事業の一として十月一日より二日間飛行機により東北六縣主要都市を訪問し機上より國民大衆の健康長壽ビラを撒布、あはせて東北民の航空熱を大いに刺戟することになつた、平町へは天候に支障無い限り二日午後四時三十分該飛行の最終行程として福島より飛來、仙台へ歸還することになつてゐる

兒童籠球戰
あす廿四組の爭覇

体育協會石城支部主催第二回郡下小學兒童籠球大會は

年秋)の優勝は平第三(尋男)同第一(高男)同第二(尋女、高女)の平全勝であつた(括弧內は區)

△尋男—小名濱 磐崎第一 (二)平第一 同第三 (三)豐間 四倉(四)
△尋女—小名濱 入山(二) 平第三 同第二(三) 四倉 草野(四)
△高男—小名濱 磐崎(二) 平第一 高坂(三) 豐間 夏井(四)
△高女—小名濱 湯本(二) 平第二 飯野(三) 神谷 草野(四)

石坂恒雄君 行政科合格

平町田町石坂詮太郎氏二男東京帝大獨法科三年(磐中廿八回生)恒雄君は過般高等試驗行政科筆記試驗に見事合格した

護空忠烈
藤間海岸に記念碑建立
殉職兩勇士を弔ふ

昨年八月二十八日夏井村藤間海岸に墜落して壯烈な最期を飾つた濱松航空學校特務曹長濱谷憲二、曹長橋本正二兩勇士のため地元夏井村では『護空忠烈』の慰靈塔を建設中此程竣功二十七日午前九時から陸相、遺族其他を招き盛大な除幕式を擧行する

塔は砲身を型どり高さ十二尺の黑御影石、題字は鈴木壯六大將の揮毫になるものである

淪落の一歩前で 娘三人救出さる
惡ごい誘拐魔二名檢擧

江名町折戸三七大和屋食堂事國分熊吉(三二)は郡山市名不詳の男と共謀して同市堤下二一傳七五女伊藤ナミ子(二〇)同市麓山町渡邊ミエ子(二〇)妹花代(一七)の三名を誘拐し、昨十一日平着午後零時四十五分で連れ來て直に貸切りで江名へ向つた處を郡山署の手配で平署に捕はれた、三名は何れも良家の子女で家庭に複雜した事情があるらしい

數々の罪に 二年半求刑
二犯男小川淸重

當時住居不定無職茨城縣眞壁郡關本町生れ前科二犯小川淸重(三四)は今十二日香西判事係りの公判で、懲役二年六月を求刑された、言渡しは來る十五日

同人は小名濱町小濱敬太郎方に雇はれ中昨年六月中平町一丁目田口文平から小名濱町菅原勳への鰯粕代金百七十三圓を拐帶逃走、東京市板橋區石神井南田中町トラック業谷治吉藏方に雇はれ同七月中現金七圓と自動車運轉手免許證を竊取、右免許證で千葉縣柏驛前石戶方、同松戶驛前倉田方等に雇はれ同九月中現金百圓を竊取、岩手縣黑澤尻自動車株式會社に雇はれ本年七月十二日一ノ關町縣是製糸所からの運搬賃四十圓を橫領、去月下旬植田町他[illegible]く徘徊中植田警員に捕はれたもの

空家に怪火

演習一時中止の十一日夜十時四十分頃平町紺屋町下駄商根本重藏氏隣りの空家(同町馬目玉彌氏所有)から發火、折から通行中の西部防護團長青天目源一郎氏が發見、幸ひ大事に至らず鎭火したが、附近では放火の疑さもあり平署で目下原因取調中

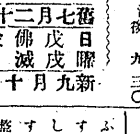
診療科目

一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科

中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
(見習看護婦募集)

縣社飯野八幡神社大祭
奉納 立華、生花陳列
九月十四日、十五日兩日
三丁目元中野呉服店跡
岡田華悅社中

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部 電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。



舊七月二十八日 日曜 戊戌 佛滅 除 星宿 新九月十三日

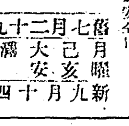
諸判定應需
東京市本鄉區湯島四丁目
高島易斷總本部 神誠館

▲一白 衆人の同情引立にあひて

十三日(小名濱測候所發表)
日出 五、一七 月出前 五、一七
日沒 五、五〇 月沒後 四、一一
滿潮 前一、一五 後三、二〇 干潮 前八、三五 後八、五五

十四日
日出 五、一八 月出前 三、四三
日沒 五、四七 月沒後 四、四〇
滿潮 前二、二〇 後三、三五 干潮 前九、[illegible] 後九、三〇

計畫の成就する日▲二黑 表面は順調の如く見へて物事長引き易し▲三碧 一歩誤れば一難復來る萬事過み求む可らず▲四綠 他人の世話事に手を出す時は災ひの起る日▲五黃 平和を主として物事急がざれば吉運に向ふ▲六白 新規の事業は差控へて後日にゆづるが極安全▲七赤 萬事大に開る日にて開店名弘殊に吉旅行可▲八白 度び事の取り來らんとす婚談緣組至極吉▲九紫 言語を愼しみ外出をさけ內に在るが安全日



舊七月二十九日 月曜 己亥 大安 滿 張宿 新九月十四日

▲一白 進むも心を曲えて退守の方針を採れば平なり▲二黑 順調に運ぶ事と思ひしも意外の障害にあふ▲三碧 決斷力を強め大に奮闘する所あらば發達す▲四綠 警戒し乍ら闘らす人の誘合に乘り迷惑す▲五黃 萬事放まんに流れて財務回復容易ならざる日▲六白 辛勞は身にまとはる屈せず勵めば成果を見る▲七赤 我意專行は失敗を招く基病厄盜難亦警戒▲八白 物事は十分ならんと望むよりも八分か安全▲九紫 不斷の努力現はれて希望を滿足せしむる日

三井タクシ
電話六八五番